

◇進路通信◇



第 6 号 2021年9月22日

共通テストへの道 ①

学習は「センター試験」をベースに

■共通テストとセンター試験



共通テストの過去問は、2021年の第1日程と第2日程の2回分です。現在販売されている「共通テスト対策参考書」や「予想問題」は、この試験をベースにし、共通テストが始まる前に実施された「共通テスト試行調査問題」「センター試験過去問」を加えている場合があります。最初に注意して欲しい点は、この試行調査問題は名称通り「調査」を目的

にしているため、実際に行われる共通テストよりも問題形式が多様で、難易度の高いものが入っています。そこで、2022年の共通テストへ向けてどのように学習するかは、2021年実施の2回の問題をベースに、センター試験の過去問演習が欠かせません。

共通テストがセンター試験と異なる点は、大まかに次の2つです。

- (1) 資料やデータが増えた (2) 会話文などを読み解きながら解答する

理由としては、インターネットや人工知能の発達でデータを扱う力がより重要になること、また、SNSの普及等で読解力が低下している等、があります。

センター試験との連続性に関しては、大学入試センターが「センター試験の良問を継承する」と明示しています。例えば、2013年理科総合A第1問、2015年理科総合B第1問、2018年地理Bなどを良問として挙げています。

■思考力重視

2020年小学校から始まった「学習指導要領」の改訂で、「思考力、判断力、表現力等を育成する」ことが柱にすえられました。これは、「VUCA時代」の到来に対応するためです。



【裏面へ】

VUCAとは、

V(Volatility:変動性), U(Uncertainty:不確実性), C(Complexity:複雑性), A(Ambiguity:曖昧性)の頭文字を並べたもので、これからは「今までの常識が非常識になる」「正解がない」事態が次々に起こる時代となります。そのために、自分の頭で考えられることが重要になってきます。一方で、「思考力重視」というと「知識軽視」でよいと捉えられてしまうことが懸念されます。これは間違いで「知識を身に付けたり、問うことは不要である」ということではありません。知識の重要性は今後も変わらないのです。ポイントは「知識理解の質」が重要(表面的丸暗記では解けない問題を出題すること)であるということです。この点に関して、大学入試センターは次のように言っています。



「類題演習や模試を通してパターン化された知識では正解できないように、問題作成や新しい問い方を模索する」



これはどのようなことを意味しているのでしょうか。「知識を活用し、判断、表現する思考力を問う問題を模索していくなかで、出題形式は変わり得る」ということです。問題の形式ばかりにとらわれた勉強は危険です。本質は「限られた時間内で、複数の知識や情報を組み合わせ、判断し、解答する力」をつけることです。共通テストの問題作成方針は公開されています(センター試験は公開されませんでした)。

2021年第1回の共通テストの問題構成や出題傾向が、全く同じ形で続くものではないということを、しっかり肝に銘じておいてください。共通テストは、時代の変化に合わせて柔軟に変わっていくということなのです。

